

まちなかーT起業

有明高専生ら空き店舗活用

大牟田市中心部の「銀座通商店街」の空き店舗に、同市の有明高専の学生が就業体験を兼ねて働くソフトウェア開発会社が設立された。2階建ての旧靴店を賃貸し、高専生9人がソフトウェア開発に従事。1階には、情報関連産業の集積を目指して「まちなかシリコンバレー」と名付けた交流スペースを設けた。商店街振興組合は「若者とITの力で、『シャッター通り』を返上したい」と期待を寄せる。(小川紀之)



設立されたのは「ASKプロジェクト」(橋爪康知社長)。佐賀市のソフトウェア開発会社「木村情報技術」の子会社で、スマートフォン用アプリケーションソフトの開発を手がけている。顧客と向き合うことで実践的な力を身につけ、技術力も高めることを目指した同高専卒業生で佐賀大大学院生の野口卓朗さん(24)が考案した人材育成プランを導入。石川洋平・同高専電子情報工学科准教授の協力

大牟田「活気取り戻す一助に」

を受けている。野口さんはASKプロジェクトの副社長を務めている。商店街への進出は、「街中で学外の人と積極的に交流したい」との野口さんらの意向を聞いた大牟田市商業観光課が仲介し、実現した。靴店の改修費約200万円は、商店街振興組合が市の助成(約160万円)を受けて負担した。「まちなかシリコンバレー」は昨秋、助成の申請に向けて振興組合と野口さんとが話し合う中で生まれた言葉。空洞化が進む中心商店街に新興企業を集め、アメリカのシリコンバレーのようなIT企業の一大拠点を目指し、ASKがその呼び水になる。そんな思いを込めた。

大牟田市は人口減が続く、郊外型商業施設の台頭もあって中心商店街を取り巻く環境は厳しい。後継者のいない店も多く、銀座通商店街だけで、この2年で7店が閉店、移転した。振興組合副理事長の光山一生さん(64)は「若い仲間をいかに増やすかについて考えてきたが、IT企業の誘致は思いつかなかった。将来は、起業した高専の卒業生が全ての空き店舗を埋めてほしい」と期待する。野口さんは大牟田市出身。子どもの頃、幅広い世代の人でにぎわう銀座通商店街によく足を運んでいたという。「街中で様々な人と会い、新しいソフトのアイデアをもらいたい。ゆくゆくは交流の核となり、通りに活気を取り戻す一助になりたい」と意気込んでいる。